DiDiモビリティジャパン株式会社

会社説明

【設立の背景とビジョン】 DiDiモビリティジャパン株式会社は、2018年6月、日本の通信大手であるソフトバンク株式会社と、世界最大級のモビリティプラットフォームを運営する中国のDidi Chuxing（滴滴出行）の強力なタッグによって誕生しました。設立の背景には、日本のタクシー業界におけるデジタル化の遅れと、深刻なドライバー不足、そしてユーザー側の「タクシーがつかまりにくい」という不便さを、最先端のテクノロジーで解決するという強いミッションがあります。

【AIテクノロジーによる革新】 同社の最大の強みは、滴滴出行がグローバルで培った高度なAI（人工知能）技術です。過去の膨大な乗車データや天候、イベント情報などをリアルタイムで解析し、タクシーの需要を予測。需要が高いエリアへ事前に車両を誘導するなどの最適化を行うことで、乗客には「平均5分以内」という圧倒的な待ち時間の短さを、ドライバーには「実車率の向上」という高い生産性を提供しています。

【ユーザー体験の向上と独自性】 サービス開始当初から、ユーザー目線の使いやすさを追求してきました。直感的なアプリUIに加え、クレジットカードやPayPayとの連携によるキャッシュレス決済、目的地の事前入力による言語の壁の解消、さらには乗車ごとにポイントが貯まる「DiDiポイント」など、従来のタクシー利用にはなかった付加価値を次々と導入しました。2025年には累計1,000万ダウンロードを突破し、特に沖縄などの特定エリアではシェアNo.1を獲得するなど、確固たる地位を築いています。

【社会課題への挑戦と今後の展望】 現在、同社は単なるタクシー配車アプリの枠を超え、日本のモビリティのあり方を再定義しようとしています。近年注目されている「日本版ライドシェア」への対応や、タクシーが不足する夜間の需要を支える「運転代行配車サービス」の展開、さらにはタクシー事業者の経営効率化を支援する管理システムの提供など、BtoB・BtoC両面からアプローチを強めています。「透明性」「公正性」「パートナーシップ」を軸に、タクシー事業者や自治体と手を取り合いながら、誰もがもっと自由に、快適に移動できる社会の実現を目指しています。グローバルな技術力と日本国内の強力なネットワークを融合させたハイブリッドな企業文化の中で、移動の未来を切り拓く挑戦を続けています。

会社概要

本社所在地
日本

事業内容
タクシー配車プラットフォーム「DiDi」の提供、およびそれに付随するモビリティサービス事業、日本版ライドシェア支援、運転代行配車（沖縄エリア等）

代表取締役
和久山 大輔

設立年
2018年6月

資本金
1億円

従業員数
101 - 500人

URL
https://didimobility.co.jp

オフィス情報

メインオフィス
〒1057511
東京都 港区 海岸1-7-1
東京ポートシティ竹芝 11F